

5. 現場で入浴中の溺水(目撃者あり)であることが判明した

解答:5のみ

問題 35:誤っているのはどれか

1. 事後検証は誤挿管の減少に有用である
2. アメリカのパラメディックの心肺停止患者への気管挿管成功率は96%であった
3. アメリカの EMT の呼吸停止患者への気管挿管の成功率は70%であった
4. 気管挿管による事故を減らすために現場活動指針が必要である
5. 事故検証票には気管チューブのサイズ、カフ位置、固定位置(cm)も記入する

解答:3のみ

問題 36:気管挿管に伴う合併症とその対応について誤っているのはどれか

1. 気管挿管中に歯牙を折ってしまったので消防署で挿管した
2. 歯肉から出血していたのでガーゼで圧迫した
3. 口咽頭内に血液が垂れ込んでいるのでカフを十分膨らませた
4. 主治医と地域のメディカルコントロール担当医と相談した上で家族に謝罪した
5. 地域メディカルコントロール協議会に報告書を提出した

解答:1のみ

問題 37:スタンダードプリコーションについて誤っているのはどれか。

- 1.ユニバーサルプリコーションを拡大したものである。
- 2.感染経路別予防策が含まれる。
- 3.唾液は感染予防の対象となる。
- 4.咳嗽のある傷病者へのマスク着用。
- 5.滅菌ガウンの着用。

解答:5のみ

問題 38:救急救命士の病院実習において手術前の観察項目でないのはどれか。

- 1.既往歴の聴取。
- 2.喉頭鏡による口腔内観察。
- 3.義歯の有無。
- 4.頸椎可動域の評価。
- 5.胸部単純エックス線写真。

解答:2のみ

問題 39:気道管理資器材で滅菌が必要なのはどれか。

- a.バッグ・バルブ
- b.加湿器
- c.酸素吸入用マスク
- d.吸引カテーテル
- e.吸引びん

解答パターン:1 a. b. 2 a. e. 3 b. c. 4 c. d. 5 d. e.

解答:4.c.d.

問題40:ASA分類について誤っているのはどれか

1. 合併症のない肥満はASA2度である。
2. 安定しない糖尿病はASA3度である。
3. 狭心症はASA4度である。
4. ショック伴う心筋梗塞はASA5度である。
5. 管理されている高血圧患者の胃穿孔手術はASA2度Eである。

解答:3のみ

資料4:ポストテスト問題の更新1

問題1:正しいのはどれか

1. 軟口蓋は口蓋の後ろ約 2/3 である。
2. 下咽頭全体は上気道である。
3. 全肺気量とは肺活量のことである。
4. 気管分岐角度は左側が浅い。
5. 一般に気管挿管は太っている人が難しい。

解答:5のみ

問題2:誤っているのはどれか

1. 気管軟骨には背側が欠損している。
2. 肺の右葉は3葉に分かれる。
3. 湾曲型ブレードの先端を喉頭蓋谷に挿入して喉頭展開する。
4. 短顎は挿管困難の一因である。
5. 巨顎は挿管困難の一因である。

解答:5のみ

問題3:正しいのはどれか

- a. 声門は輪状軟骨の内側にある。
- b. 左右の気管支の分岐部は第6頸椎の高さである。
- c. 右肺の方が左肺より大きい。
- d. 気管支は約23回分岐し肺胞に至る。
- e. 気管支の栄養は肺動脈が行っている。

解答パターン:1.ab 2.a.e 3.b.c. 4.c.d. 5.d.e.

解答:4.c.d

問題4:誤っているのはどれか。

嚥下運動の始まりは舌の上後方への動きにより、口腔内の食物を喉頭に移動させることである。同時に、硬口蓋が挙上し、鼻腔への逆流を予防する。また、誤嚥予防に喉頭蓋で喉頭口を塞ぎ、食道括約筋が弛緩し、他の筋との協調運動で食物を食道に流れ込ませる。

- a.喉頭
- b.硬口蓋
- c.鼻腔
- d.喉頭蓋
- e.食道括約筋

解答パターン: 1 a. b. 2 a. e. 3 b. c. 4 c. d. 5 d. e.

解答: 1.a.b.

問題5:バッグバルブマスク換気を困難にする原因でないのはどれか

- 1.肺塞栓
- 2.病的肥満
- 3.喘息発作
- 4.あごのひげ
- 5.気胸

解答: 1のみ

問題6:誤っているのはどれか

1. 機能的残気量は残気量と呼気予備量の和である。
2. 吸気予備量と一回換気量の和が吸気量である。
3. 死腔とは肺胞でガス交換にあずからない換気量である。
4. 胸腔内圧は呼気終末には陽圧になる。
5. 肺の伸展性の指標をコンプライアンスという。

解答:4のみ

問題7:正しいのはどれか

- a.無気肺では肺内シャントが増加する。
- b.無気肺では死腔が増大する。
- c.肺塞栓では肺内シャントが増大する。
- d.換気に比べ血流が少ない場合はシャント率が低い。
- e.肺炎では肺内シャントが増大する。

解答パターン:1.a.b.c. 2.a.b.e. 3.a.d.e. 4.b.c.d 5.c.d.e

解答:3.a.d.e

問題8:正しいのはどれか

- a.救急現場で気管挿管する場合はフルスマックと考えて対応する。
- b.誤嚥性肺炎は重症化しやすい。
- c.肺の換気血流比は、肺のどの部分でも一定である。
- d.胸郭のⅢ度熱傷では胸郭のコンプライアンスが増大する。
- e.肺水腫では肺内シャントが増大する。

解答パターン:1.a.b.c. 2.a.b.e. 3.a.d.e. 4.b.c.d 5.c.d.e

解答:2.abe

問題9:正しいのはどれか。

- 1.安静時、成人の1回換気量は800mlである。
- 2.成人の右気管分岐角は約40°である。
- 3.気管は第4頸椎の高さから始まる。
- 4.右肺は左肺の1.4倍の大きさである。
- 5.8歳の小児の呼吸器は解剖学的に成人と同じとみなす。

解答:5のみ

問題10:「器具を用いた気道確保」で資器材の選択指標でないのはどれか。

1. 体重
2. 性別
3. 既往歴
4. 年齢
5. 身長

解答:1のみ

問題11:上気道閉塞について正しいのはどれか。

- a.後鼻孔からの出血が原因となる。
- b.老人では部分閉塞が起こりやすい。
- c.呼気時に喘鳴が聴取される。
- d.呼吸停止例では気道確保を優先する。
- e.シーソー呼吸が観察される。

選択パターン:1.a.b. 2.a.e. 3.b.c. 4.c.d. 5.d.e.

解答:2.a.e.

問題12:呼気終末陽圧呼吸(PEEP)の利点でないのはどれか

1. 拡散障害の改善
2. 機能的残気量の減少
3. 無気肺の予防
4. 肺炎の予防
5. 酸素化能の改善

解答:2のみ

問題13:気管挿管後、急性期の合併症でないのはどれか

- 1.気管チューブの閉塞
- 2.気胸
- 3.人工呼吸器の故障
- 4.片肺挿管
- 5.嘔声

解答:5のみ

問題14:気管挿管中の状態でないのはどれか

1. 吸気に加温・加湿が障害される
2. 気道粘膜の繊毛運動が障害される
3. 喀痰の排出が障害される
4. 肺感染症が増加する
5. 発声は可能である

解答:5のみ

問題15:気管挿管後の人工呼吸に伴う合併症でないのはどれか

1. 血胸
2. 気管チューブ閉塞
3. 無気肺
4. 精神的ストレス
5. 酸素中毒

解答:1のみ

解説:気胸の合併はあるが血胸はまれである

問題16:異物の原因と病態の関係で誤っているのはどれか

1. 高齢者では餅が気道閉塞の原因となる。
2. 乳幼児ではピーナッツが気道異物の原因となる。
3. 頸部外傷では頸部の血腫が気道閉塞の原因となる。
4. 気道熱傷では頸部の皮下気腫が気道閉塞の原因となる。
5. アナフィラキシーでは喉頭浮腫が気道閉塞の原因となる。

解答:4のみ

問題17:心肺停止の原因と病態の関係で誤っているのはどれか

1. 急性喉頭蓋炎 ————— 上気道閉塞
2. 化学損傷 ————— 上気道浮腫
3. 良性腫瘍 ————— 上気道閉塞
4. 筋萎縮性側索硬化症 ——— 気道閉塞
5. ふぐ中毒 ————— 上気道の閉塞

解答:5のみ

問題18:救急現場における心肺停止の原因として最も可能性が低いのはどれか

1. くも膜下出血
2. 高位頸髄損傷
3. 脳幹出血
4. 急性硬膜外血腫
5. 脳梗塞

解答:5のみ

問題19:仰臥位でのスニッピングポジションについて誤っているのはどれか。

1. 頭部を後屈する。
2. オトガイ部を挙上する。
3. 口腔軸と喉頭軸が一直線になる。
4. 最も声門部の視野が得られやすい。
5. 頸椎損傷が疑われる場合は禁忌である。

解答:2のみ

問題20:気管挿管操作について誤っているのはどれか。

1. 声門部から視線を逸らさないように、あらかじめ右手で気管チューブを保持する。
2. 気管チューブが声門を通過するのを直視下に確認する。
3. スタイレットは気管チューブが正しい位置に挿入されるまで抜去しない。
4. 気管チューブはカフの近位端が声門を1~2 cm通過したところで固定する。
5. セリック法は胃内容物の逆流を防止する手技である。

解答:3のみ

問題21:気管チューブの位置確認について誤っているのはどれか。

1. 気管チューブの深さは口角からの距離で確認してもよい。
2. 位置確認後にバッグバルブを気管チューブに接続する。
3. 最初に上腹部で聴診する。
4. 専用の固定器具やテープでチューブを固定する。
5. 確認器具は固定器具などでチューブを固定してから使用する。

解答:2のみ

問題22:呼気二酸化炭素検出器について誤っているのはどれか。

1. 呼気二酸化炭素の検出は肺血流量の影響を受ける。
2. 正しく気管に挿管していても呼気二酸化炭素が検出されないことがある。
3. 気管チューブの閉塞時は呼気二酸化炭素が検出されないことがある。
4. 気管チューブが咽頭内に留置されている時は呼気二酸化炭素が検出されることがある。
5. 食道内にチューブが挿入されている時は絶対に呼気二酸化炭素が検出されることはない。

解答:5のみ

問題23:陰圧式食道挿管判定器具について誤っているのはどれか。

1. 食道と気管の三次元的構造の違いを利用した器具である。
2. 自己膨張式球とシリンジを使用するものがある。
3. チューブが食道にあるとシリンジ式ではプランジャーが容易に引ける。
4. チューブが気道にあると自己膨張式では直に再膨張する。
5. 気管チューブの閉塞や分泌物により誤った結果をもたらすことがある。

解答:3のみ

問題24. 誤っているのはどれか。

気管挿管法の実施にあたり、気管挿管の困難を予測する方法としてマランパティ (Mallanpati) 分類がある。これは最大開口位で、軟口蓋、口蓋垂、口蓋扁桃、咽頭後壁の見え方で分類するものである。心肺停止患者で極めて有用である。またクラス1から4までに分類され、最重症のクラス4は硬口蓋しか見えない状態をいう。

1. 気管挿管の困難を予測する方法の名前
2. Mallanpati 分類で観察する場所
3. Mallanpati 分類での有用となる対象患者
4. クラス分類の仕方
5. クラス4で観察する部位

解答:3のみ

問題25: Cormack グレードについて誤っているのはどれか。

- a. 喉頭展開時の咽頭の見え方によって気管挿管困難を予測する分類である。
- b. グレード1から5に分類する。
- c. グレード4では口蓋垂が見えるのみである。
- d. グレード2以上ではBURP法を併用する。
- e. 心肺停止患者の5%程度がグレード3以上である。

選択パターン: 1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

解答: 3.b、cのみ

問題 26: 気管挿管の確認項目でないのはどれか

1. 胸郭の挙上
2. 上腹部の聴診
3. SpO₂ 値
4. エアウェイチェッカーの 4 秒以内再膨張
5. 気管チューブ内の結露

解答: 3のみ

問題 27: 片肺挿管を疑う状態とその処置で誤っているのはどれか

1. 呼吸音の左右差がある。
2. チューブの深さが門歯で24cm以上ある。
3. バッグバルブ加圧時の抵抗が強い。
4. 呼吸音が正常に戻るまで気管チューブをゆっくりと抜去する。
5. 気管チューブのサイズを変更する。

解答: 5のみ

問題 28: 気管挿管後の確認や処置で正しいのはどれか

1. 男性なので門歯で20cmの位置にチューブを固定した。
2. 左右の第五肋間中腋窩線上で呼吸音を確認した。
3. カフに20ml送気した。
4. イージーキャップ II を装着したら黄色であった。
5. 人工呼吸器の一回換気量を6-7ml/kg に設定した。

解答: 4のみ

問題 29:気管挿管後の確認操作手順で正しいのはどれか

- a. カフエアの注入
- b. 上腹部・胸壁の動きの視認
- c. 呼吸音の確認
- d. エアウェイチェッカーの使用
- e. 心臓マッサージの再開

- 1. a-b-c-d-e
- 2. a-b-c-e-d
- 3. a-b-e-c-d
- 4. a-e-b-c-d
- 5. e-a-b-c-d

解答:2のみ

問題 30:気管チューブの準備で誤っているのはどれか

- 1. 清潔操作で実施する。
- 2. スタイレットの先端を鋭角に彎曲させた方が挿管しやすくなる。
- 3. スタイレットは気管チューブの先端を越えてはならない。
- 4. 嘔吐時に迅速な対応ができるように常に吸引器を準備する。
- 5. カフは十分に膨張させて破損の有無を確認する。

解答:2のみ

問題 31:事後検証について誤っているのはどれか。

1. 医師は救急活動も医学的に検証する。
2. 常に搬送先医療機関の担当医師が検証を行うとは限らない。
3. 消防本部の指導的救急救命士が業務管理的検証を行う。
4. 検証結果は救急救命士個人のデータとして管理され再教育に生かされる。
5. プロトコールの適切性は検証の対象ではない。

解答:5のみ

問題 32:正しいのはどれか。

1. 救急救命士は年間 64 時間の病院実習を行うことが勧められている。
2. 救急救命士は 62 時限の気管挿管追加講習を受講すれば気管挿管を実施できる。
3. 日本麻酔学会専門医の指導下で全身麻酔症例を対象に病院で実習する。
4. 日本救急医学会専門医の指導下で心肺停止症例を対象に病院で実習する。
5. 救急救命士の気管挿管認定証は厚生労働大臣が交付する。

解答:3のみ

問題 33:誤っているのはどれか。

1. 救急救命士が特定行為を医師の指示なく単独で実施した場合は半年以下の懲役に処せられることがある。
2. 救急救命処置録は救急救命処置を実施した日から 5 年間の保存が義務がある。
3. 医療過誤とは医療者側に過失がある場合をいう。
4. 医事紛争には患者と医療者の人間関係のトラブルも含まれている。
5. 医療事故にともなう法的責任は民事、刑事、行政の3つに大別される。

解答:2のみ

問題 34:60 歳の女性。自宅で突然倒れ救急隊到着時は心肺停止状態であった。CPR を開始するも換気不良のため LM 挿入の指示を受けたが、救急車内収容後、胃内容物の逆流が発生した。救急救命士が気管挿管を選択できる状態や条件で正しいのはどれか。

1. 後髄靭帯骨化症で頸部の伸展が不良であった。
2. 喉頭展開で声門が視認できなかった。
3. 喉頭鏡を挿入するのが困難であった。
4. 階段から転落した事が判明した。
5. 入浴中の溺水(目撃者あり)が判明した。

解答:5のみ

問題 35:誤っているのはどれか

1. 事後検証は誤挿管の減少に有用である。
2. アメリカのパラメディックの心肺停止患者への気管挿管成功率は96%であった。
3. アメリカの EMT の呼吸停止患者への気管挿管の成功率は70%であった。
4. 気管挿管による事故を減らすために現場活動指針が必要である。
5. 事故検証票には気管チューブのサイズ、カフ圧(注入エア量)、固定位置(cm)も記入する。

解答:3のみ

問題 36:気管挿管に伴う合併症とその対応について正しいのはどれか

1. 歯牙を折損したので救急救命士の判断で直ちに家族に謝罪した。
2. 歯肉から出血させたので家族に説明した。
3. 口腔内から出血したが自然に止血したので主治医に報告しなかった。
4. 合併症が起きたので主治医と相談した上で家族に謝罪した。
5. 軽度の合併症なので地域メディカルコントロール協議会に報告書を提出しなかった。

解答:2のみ

問題 37:スタンダードプリコーションについて誤っているのはどれか。

- 1.ユニバーサルプリコーションを拡大したものである。
- 2.感染経路別予防策が含まれる。
- 3.唾液は感染予防の対象となる。
- 4.咳嗽のある傷病者にマスクを着用させる。
- 5.滅菌ガウンを着用する。

解答:5のみ

問題 38:全身麻酔手術の術前診察項目でないのはどれか。

- 1.既往歴の聴取。
- 2.喉頭鏡による口腔内観察。
- 3.義歯の確認。
- 4.頸椎可動域の評価。
- 5.胸部単純エックス線写真の評価。

解答:2のみ

問題 39:気管挿管に係する資器材で滅菌が必要なのはどれか。

a.バッグ・バルブ

b.喉頭鏡

c.ブレード

d.気管吸引カテーテル

e.スタイレット

解答パターン:1 a. b. 2 a. e. 3 b. c. 4 c. d. 5 d. e.

解答:5. d.e.

問題40:ASA分類について誤っているのはどれか

1. 合併症のない肥満はASA2度である。

2. 安定しない糖尿病はASA3度である。

3. 狭心症はASA4度である。

4. ショック伴う心筋梗塞はASA5度である。

5. 管理されている高血圧患者の胃穿孔手術はASA2度Eである。

解答:3のみ

資料5:ポストテスト問題更新2